

インフラマネジャーの必要性を世に問う！

ファシリティマネジメントフォーラム2025

調査研究委員会インフラマネジメント研究部会部会長 中川 均

- 1・研究部会の紹介
- 2・インフラを定義する
- 3・インフラをマネジメントするの前提
- 4・マネジメント分野における課題（群マネ）
- 5・インフラマネジャーが必要とされる理由
- 6・ファシリティマネジメントとインフラマネジメントとの関係
- 7・インフラマネジャーの育成と普及
- 8・JFMA活動と国民会議との連携促進

1-1・インフラマネジメント研究部会の紹介

■インフラマネジメント研究部会

<https://www.jfma.or.jp/research/scm18/index.html>

08. インフラマネジメント研究部会

公共施設等総合管理計画の実行、これからが本番！
「人がいない」「お金が無い」「施設が多い」、地方公共三重苦の中で「公共インフラの適正な維持管理」を進めるための具体的な方法論を今後も研究していきます。

わがふるさとの安全・安心はサステナブルに担保されているだろうか？

公共インフラの健全な維持管理をFM (AM) 手法で！

メンバー

部会長：中川 均(日本観光自動車道協会)

副部会長：岩佐 宏一(アイセイ)

部会員：青木 秀樹・盛田 彰宏・渡辺 隆(パスコ) 安藤 秀徳(東京美装興業)

猪爪 一良(オリエンタルコンサルタンツ) 岩本 和也(間瀬コンサルタント)

岡野 登美子(アイセイ) 小野木 康介・宮島 卓也(アジア航測)

北澤 隆一(ウォールナット) 幸野 茂・鈴木 泉・渡邊 大介(ガイアート)

佐々木 正博(個人) 鈴江 俊雄(三菱重工) 鈴木 智行(八千代エンジニアリング)

多和田 俊介(アイ・エス・エス) 仲田 尚樹(ヤシマ工業)

福澤 伸彦(パシフィックコンサルタンツ) 宮下 昌展(エムケイ興産)

山本 大介(関電工) 横田 慎一(行政経営支援機構)

事務局：川村 正夫・佐藤 芳宏(JFMA)

活動内容

各地域での意見交換

・民間有料道路管理者との意見交換 日本観光自動車道協会会員道路の見学・意見交換

・行政との意見交換 横浜市街路樹の管理について見学・意見交換

インフラマネジメント人材の育成を目的とした「インフラ点検のすゝめ」の出版。

国土交通省「インフラメンテ国民会議」への参加により行政連携等を模索・展開。

若手人材の育成を目的とする「高等専門学校生によるインフラマネジメントテクノロジーコンテスト2022年」の開催。

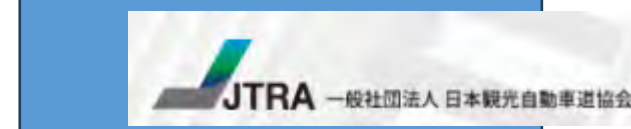
昨年のファシリティマネジメントフォーラムにて最優秀賞・国立高専機構福井工業高等専門学校、優秀賞・同旭川工業高等専門学校の作品とメンバーを紹介し、彼らの自由な発想による議論をオンラインで配信することができた。

さまざまな分野の方に参加いただきたい、実践的な事例を中心に活動を行いますので楽しい調査研究活動が実施できますよ！

※定例会開催日程(原則) 第2水曜日10:00~11:30、年10回



道路運送法上の民間有料道路



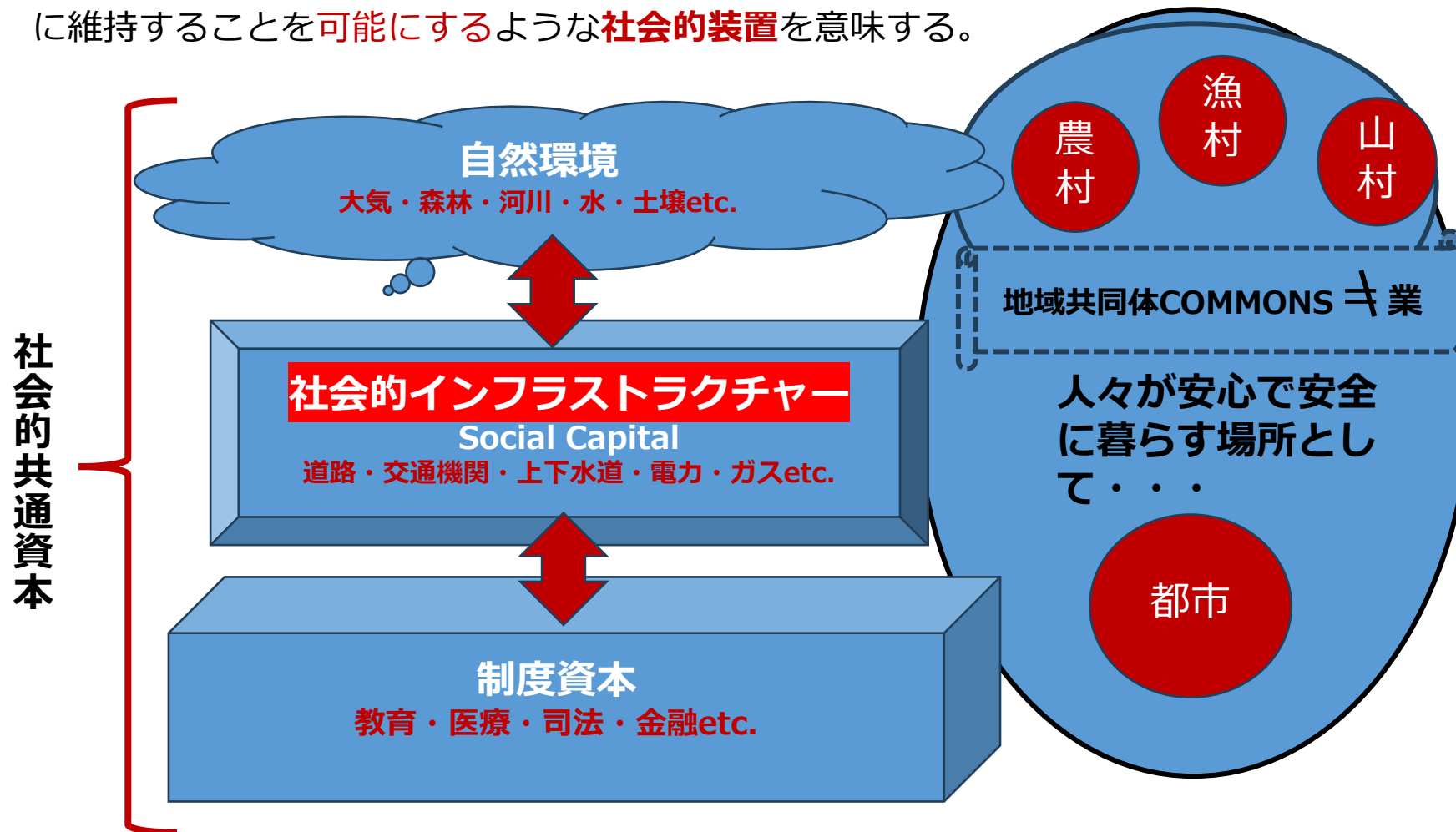
- 1 ・ 研究部会の紹介
- **2 ・ インフラを定義する**
- 3 ・ インフラをマネジメントするの前提
- 4 ・ マネジメント分野における課題（群マネ）
- 5 ・ インフラマネジャーが必要とされる理由
- 6 ・ ファシリティマネジメントとインフラマネジメントとの関係
- 7 ・ インフラマネジャーの育成と普及
- 8 ・ JFMA活動と国民会議との連携促進

2・インフラを定義する

- インフラストラクチャーとは何か？ **【社会的インフラストラクチャー】**
- 東京大学名誉教授 宇沢弘文氏の定義（参考図書：岩波新書「社会的共通資本」）



社会的共通資本は、一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、**ゆたかな**経済生活を営み、**すぐれた文化**を展開し、**人間的に魅力のある社会**を持続的、安定的に維持することを**可能にする**ような**社会的装置**を意味する。



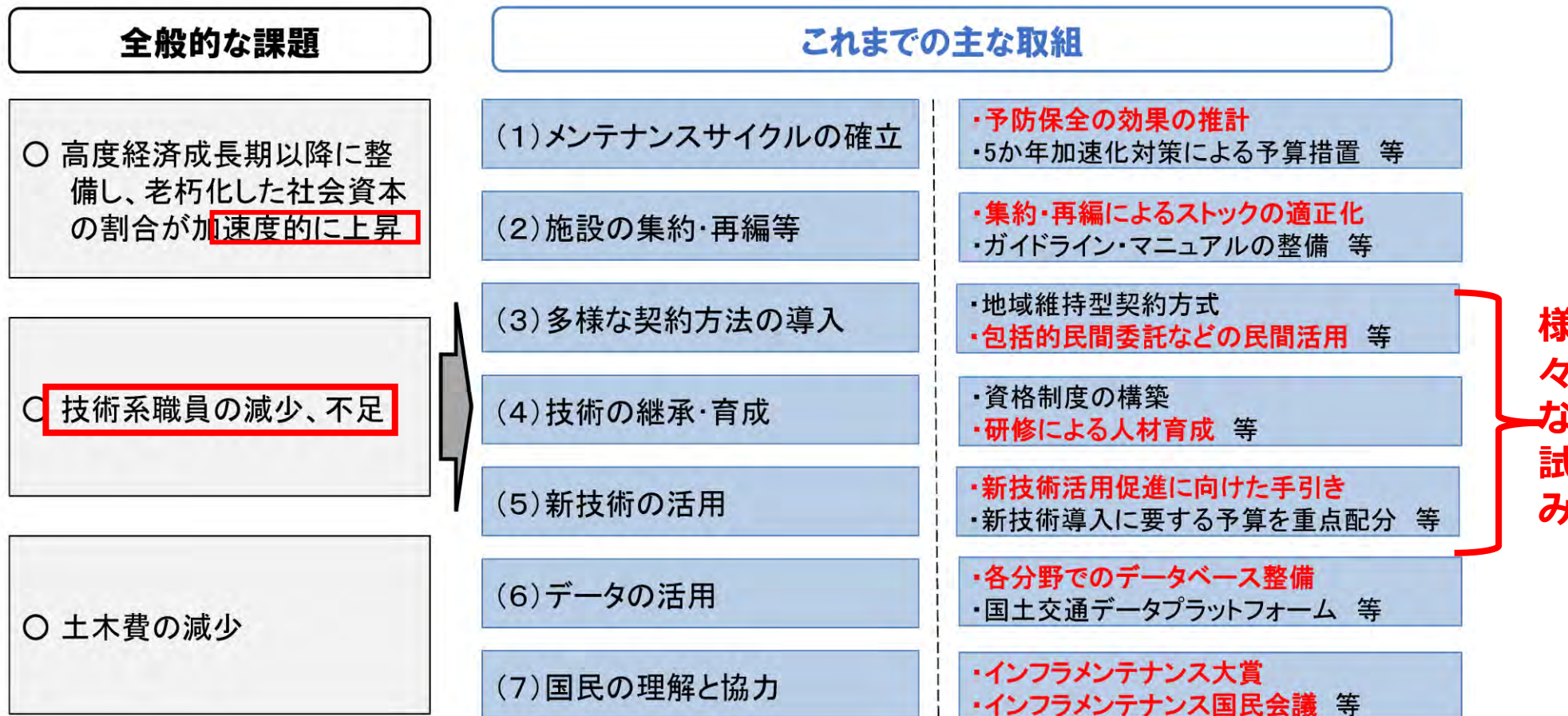
- 1 ・ 研究部会の紹介
- 2 ・ インフラを定義する
- **3 ・ インフラをマネジメントするの前提**
- 4 ・ マネジメント分野における課題（群マネ）
- 5 ・ インフラマネジャーが必要とされる理由
- 6 ・ ファシリティマネジメントとインフラマネジメントとの関係
- 7 ・ インフラマネジャーの育成と普及
- 8 ・ JFMA活動と国民会議との連携促進

- それぞれの資本はそれぞれの専門家によって職業的な倫理観と専門的な知識と経験にて運用されなければいけない。決して政治的な判断や目先の経済的な評価だけが先行してはいけない。
- 例えば、農業と農村とを同じものと考えてはいけない。同じように漁業と漁村、林業と山村も同様に……。それぞれに地域共同体COMMONSとして自然環境を保持し、サステナブルに維持していく役割がある。そこには積み上げられてきた自然とのあるいは自然資本との会話のノウハウが活かされている。決して土地の持つ生産性で評価してはいけない。
- 社会的インフラも同様に、費用VS便益という単純な公式で維持管理・更新のための費用を見積もってはいけない。そこには持続可能な社会としての脱炭素効果や高齢者社会向けの配慮も入れた専門家の判断が優先される必要がある。何よりも地域の人々が安全・安心に幸せに暮らせて定住することが最も大切な指標となる。
- 制度資本は、人々が国民として国家に帰属するための基本軸を形成する重要なものであるため、超長期の視点に立って判断されるべきもの。
- 以上が社会的インフラのマネジメントに関わるための基本的な前提だと私たちは考えています。

- 1 ・ 研究部会の紹介
- 2 ・ インフラを定義する
- 3 ・ インフラをマネジメントするの前提
- **4 ・ マネジメント分野における課題（群マネ）**
- 5 ・ インフラマネジャーが必要とされる理由
- 6 ・ ファシリティマネジメントとインフラマネジメントとの関係
- 7 ・ インフラマネジャーの育成と普及
- 8 ・ JFMA活動と国民会議との連携促進

4-1・インフラマネジメント分野における課題

- 笹子トンネルの天井板落下事故（平成24年12月）以降、インフラメンテナンスに関する全般的な課題をヒト、モノ、カネの観点から整理し、それらの課題に対して取り組むべき項目を整理・展開。



(出典：国土交通省ホームページより)

- 令和4年12月、国土交通省は「**地域インフラ群再生戦略マネジメント**（以下、群マネ）」を公表。
- 既存の行政区域に拘らない広域的な視点で、道路、公園、上下水道といった複数・多分野のインフラを「群」として捉え、更新や集約・再編、新設も組み合わせた検討により、効率的・効果的にマネジメントし、地域に必要なインフラの機能・性能を維持するもの。

①地域の将来像を踏まえた群マネの展開

- 更新、集約・再編に合わせた機能追加
- 個別施設計画の質的充実等によるメンテナンスサイクル実効性向上
- 首長のイニシアティブによる市区町村におけるインフラメンテナンスの強力な推進

②群マネを展開するために必要となる市区町村の体制構築

- 包括的民間委託等による広域的・分野横断的な維持管理の実現
- 市区町村技術者に今後求められる技術力の明確化・強化
- メンテナンスの生産性向上を図るためのツールの構築

③メンテナンスの生産性向上に資する新技術の活用推進、技術開発の促進及び必要な体制の構築

- メンテナンス産業の生産性向上に資する新技術の活用推進、技術開発の促進
- AI・新技術等の活用も見据えた体制の構築
- 将来維持管理・更新費の推計の見直し

④DXによるインフラメンテナンス分野のデジタル国土管理の実現

- 設計・施工時や点検・診断・補修時のデータ利活用によるデジタル国土管理の実現
- インフラマネジメントの高度化に向けたデータ利活用方策の検討
- セキュリティ対策の推進

⑤国民の理解と協力から国民参加・パートナーシップへの進展

- インフラメンテナンスへの国民・地域の関心の更なる向上
- 優れたメンテナンス活動の横展開の強化
- メンテナンス活動への国民参加の促進と参加を通じた真のパートナーシップの構築

（出典：国土交通省ホームページを加工）

図1：推進イメージ(案) <計画策定プロセス>

※対象エリアを越える圏域も含めた
必要な機能を考慮する必要

複数・多分野の施設を「群」としてまとめて捉え、
地域の将来像に基づき将来的に必要な機能を検討

- ①維持すべき機能
 - ②新たに加えるべき機能
 - ③役割を果たした機能
- に再整理し、個別インフラ施設の
維持／補修・修繕／更新／
集約・再編／新設等 を適切に実施

・地域特性
(人口、交通、インフラの数や状況等)
・地方公共団体間の機能的なつながり
などを踏まえて対象エリアを設定

対象エリア
(イメージ)

道路/河川・砂防・海岸管理施設/
鉄道/港湾/空港/下水道/
公園/公営住宅等

A市

B町

C村

広域の道路や
鉄道ネットワーク
のつながり等

検討主体

主体は、地方公共団体であるが、
国・都道府県・市区町村が一同に会し、
検討を進める会議・組織を設置することが考えられる

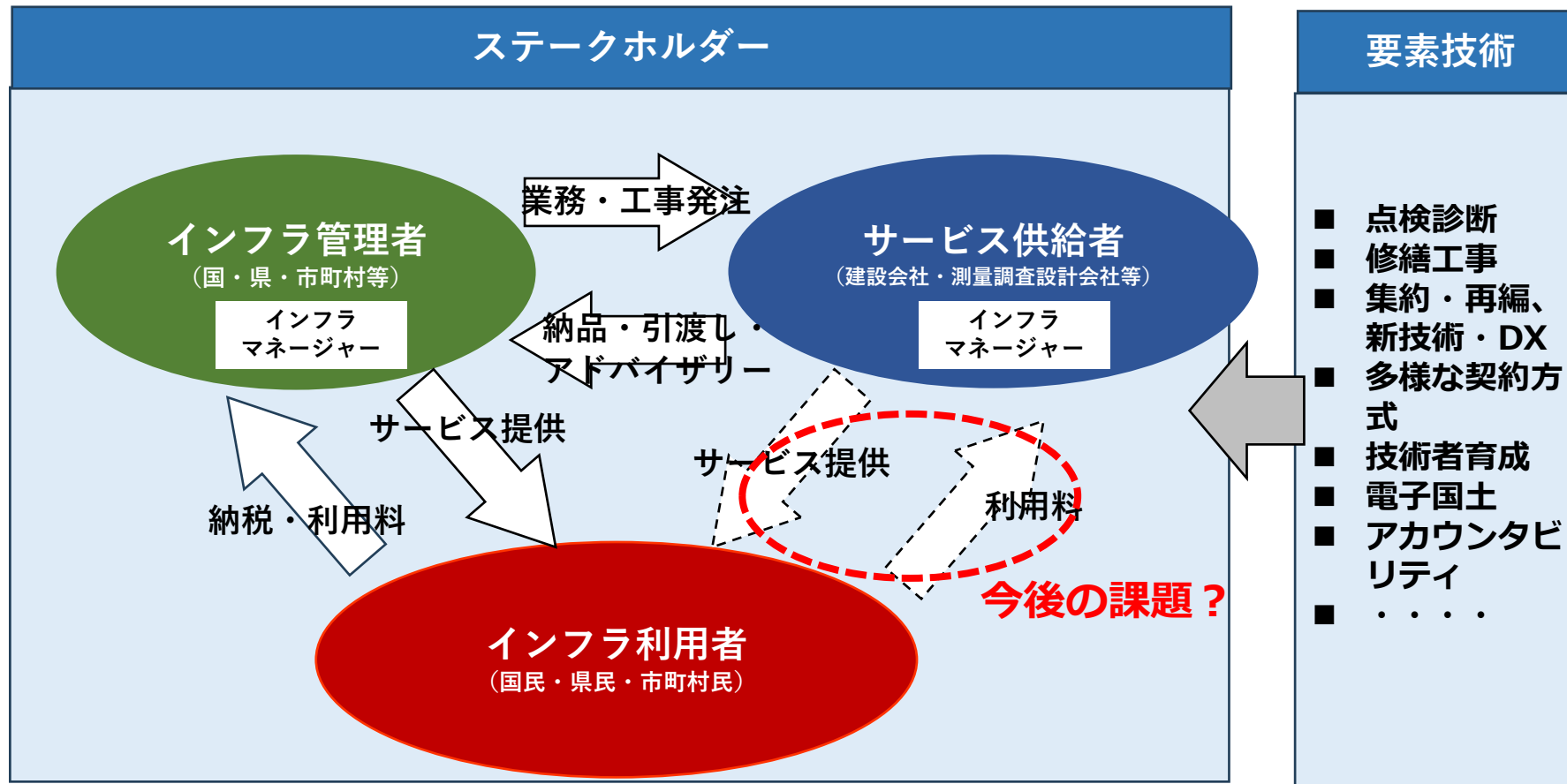
※例えば、規模の大きな市や、単一の地方公共団体からなる離島など、単一の市区町村で
検討を進めることが適切な場合も考えられ、それぞれの地域の実情に応じて個別に判断

(出典：国土交通省ホームページ)

- 1 ・ 研究部会の紹介
- 2 ・ インフラを定義する
- 3 ・ インフラをマネジメントするの前提
- 4 ・ マネジメント分野における課題（群マネ）
- **5 ・ インフラマネジャーが必要とされる理由**
- 6 ・ ファシリティマネジメントとインフラマネジメントとの関係
- 7 ・ インフラマネジャーの育成と普及
- 8 ・ JFMA活動と国民会議との連携促進

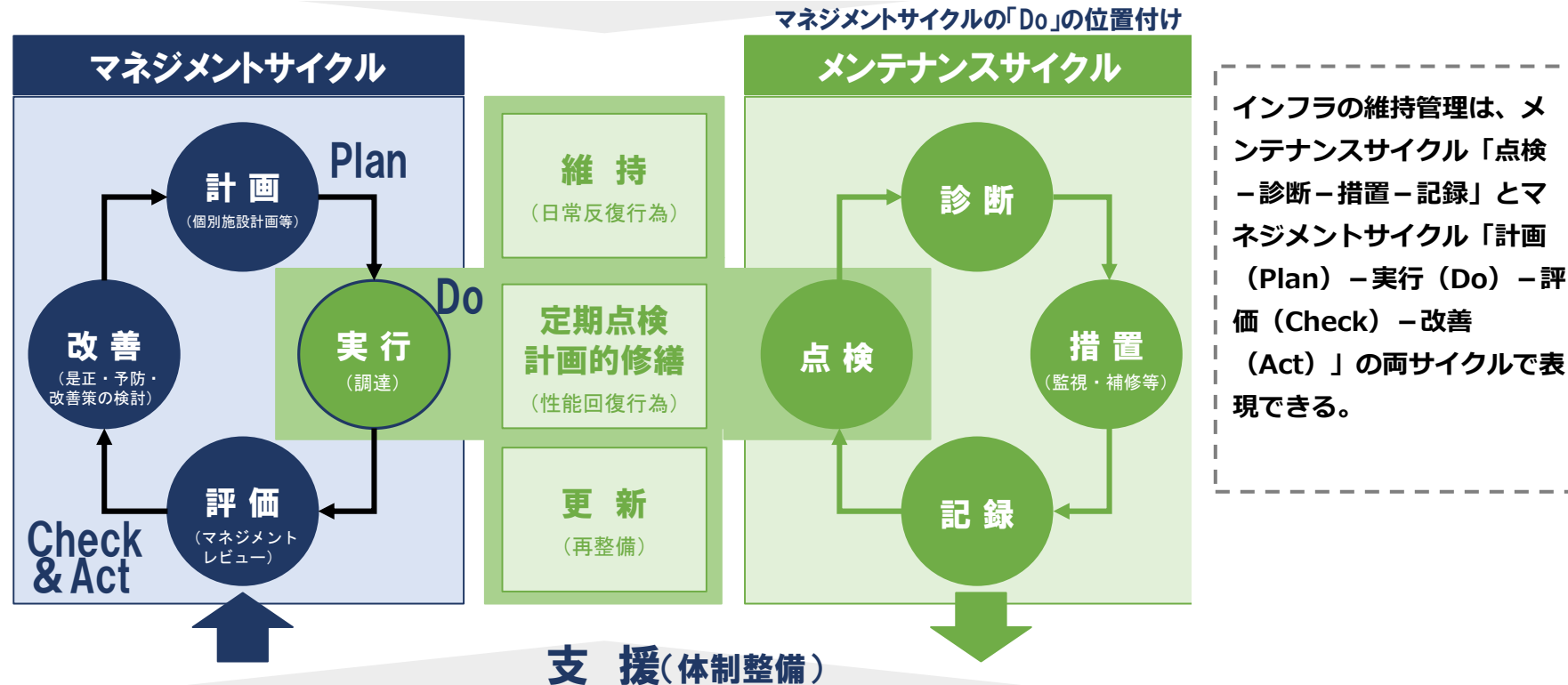
5-1・インフラマネージャーを必要とする理由・ステークホルダー間の関係性

- インフラの維持管理の目的は、インフラ利用者にサービスを継続的かつ適切な方法で提供しつづけることである。
- インフラの維持管理には、点検、修繕工事、集約・再編、新技術・DX、PFIや包括的民間委託・PFS/SIBなど多様な契約方式、技術者育成、ビッグデータの活用・電子国土、インフラ利用者へのアカウントビリティ・・・など、多岐にわたる要素技術を適切な方法で運用、管理する人材が必要。
- インフラマネージャーはインフラ管理者側とサービス提供者側で役割や必要な能力が異なることが考えられる。

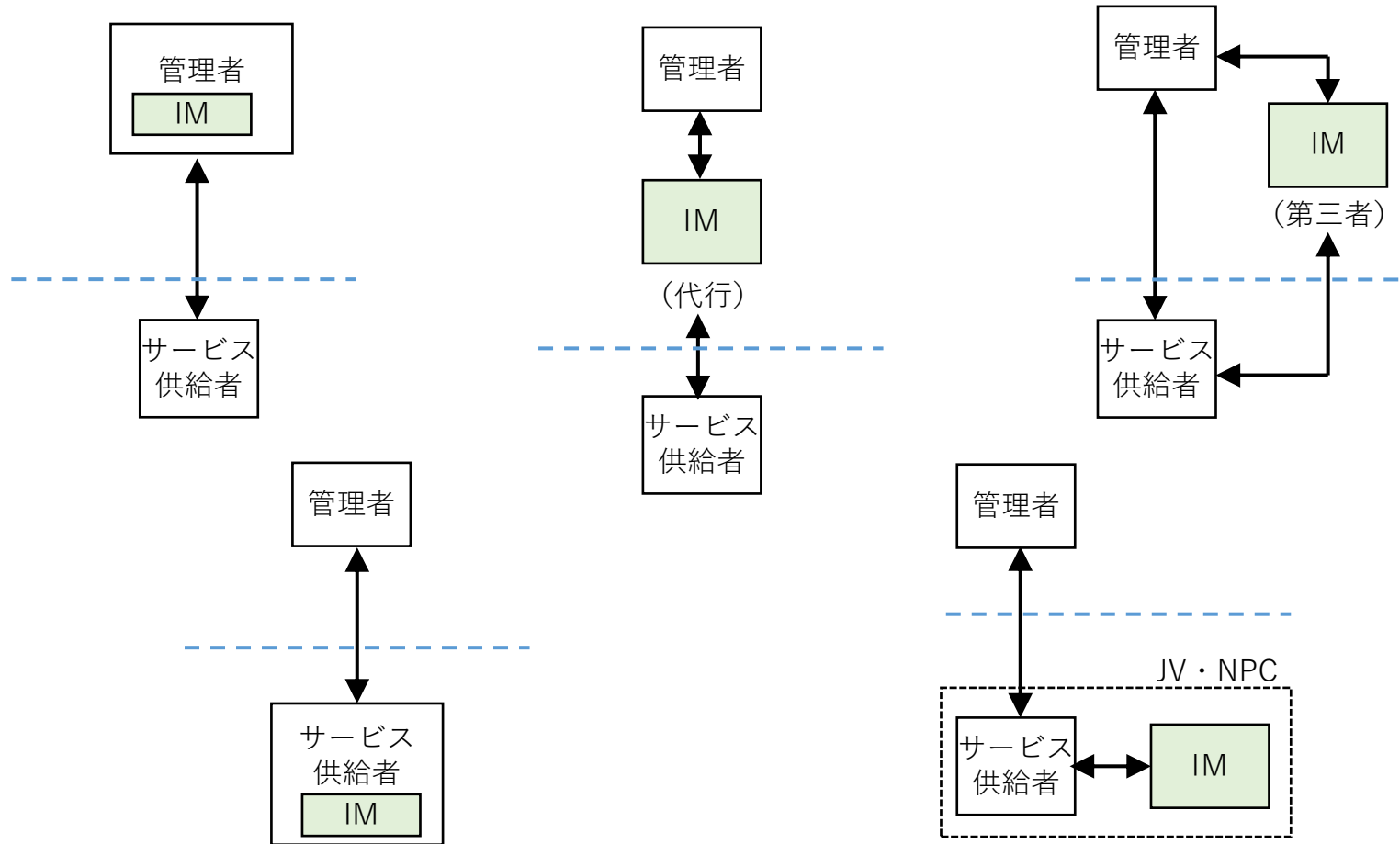


テーマ1では以下の手順で検討を予定

- ① インフラマネージャーの業務と役割をマネジメントサイクル及びメンテナンスサイクルの各フェーズごとに整理（図2）。
- ② 各業務・役割に求められるスキルを整理
 - ⇒インフラ管理者（PPP等の民間事業者含む）、サービス提供者・・・等の立場から整理（図3）
 - ⇒点検、工事、修繕工事、新技術・DX、多様な契約方式・・・等の要素技術の観点から整理
 - ⇒マネジメントスキル、ヒューマンスキル、テクニカルスキル・・・等の観点から整理（表2）

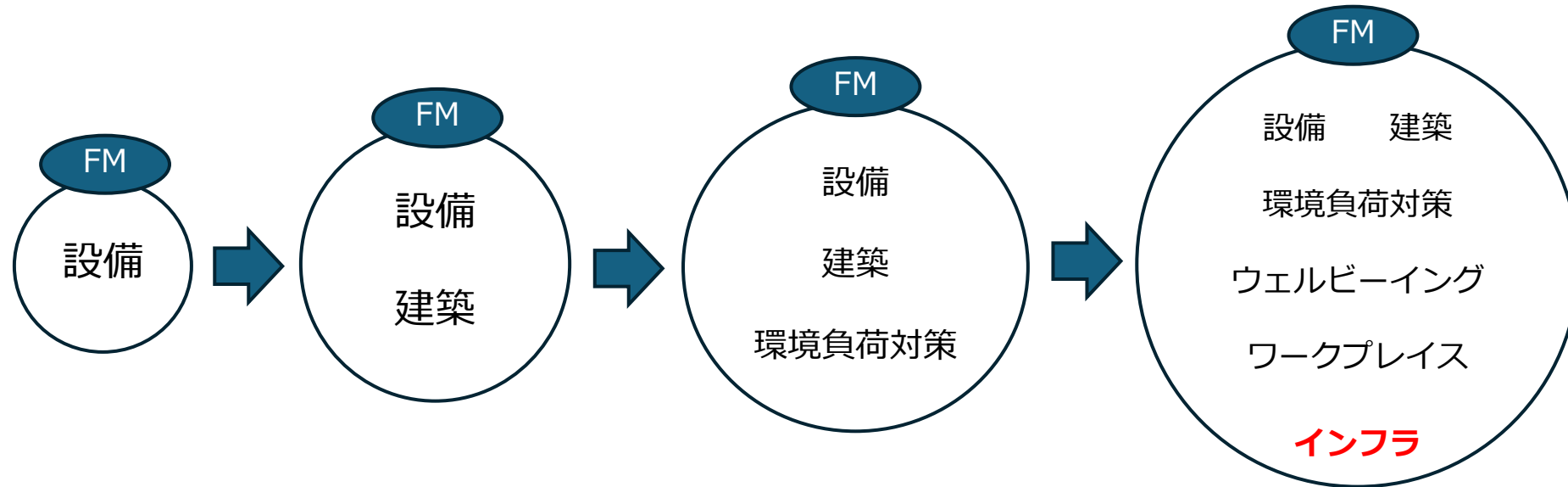


- インフラマネージャーは、インフラ管理者、サービス提供者、その他など、それぞれで立場が異なると業務や役割が異なることが考えられる。



- 1 ・ 研究部会の紹介
- 2 ・ インフラを定義する
- 3 ・ インフラをマネジメントするの前提
- 4 ・ マネジメント分野における課題（群マネ）
- 5 ・ インフラマネジャーが必要とされる理由
- **6 ・ ファシリティマネジメントとインフラマネジメントとの関係**
- 7 ・ インフラマネジャーの育成と普及
- 8 ・ JFMA活動と国民会議との連携促進

JFMAにおけるファシリティマネジメント（FM）は、世の中の変化（時代の流れ）に合わせて、さまざまな要素が加わり現在に至っている。

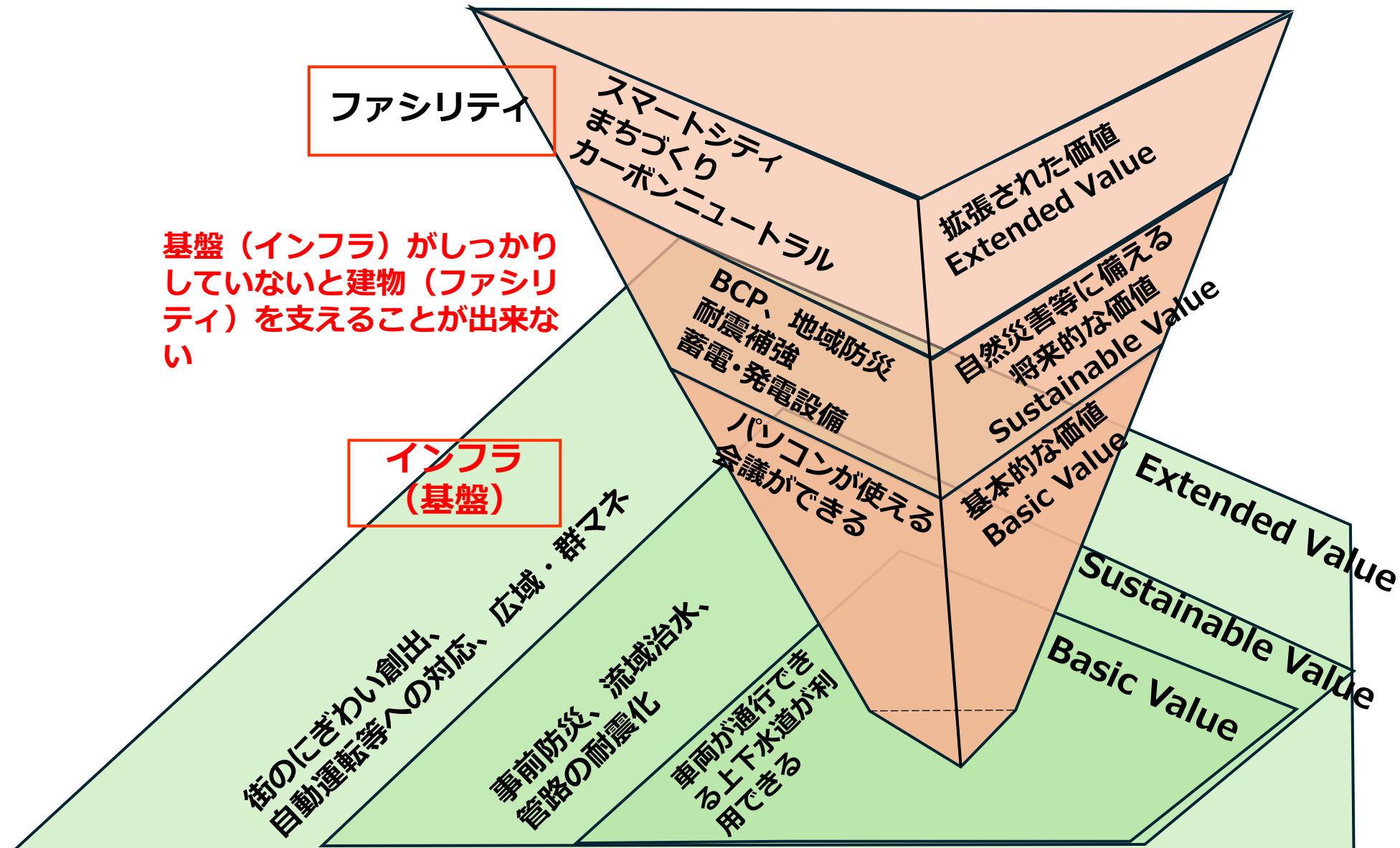


時代の流れ 高度経済成長 → バブル期 → 低成長期 → 災害の頻発、人口減少、施設老朽化

インフラはすべての社会活動を支える基盤であり、ファシリティで組織活動を継続するためには、インフラが必要不可欠！

- ファシリティの利用者（テナント従業員等）および来訪者（顧客等）が、自宅などから安心、安全に移動するために**インフラが必要**である。
- ファシリティ内で活動するうえで、電気、通信、上下水道などがファシリティへ継続的に安定供給され、継続的に利用できるように、社会基盤である**インフラが必要**である。





今後の取組のキーワードは『**経営的視点**』

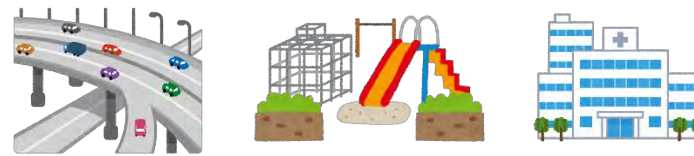
ファシリティ
= 『施設とその環境』



労働者等がファシリティ（ワークプレイス）に満足する

- 創造性の発揮
- 生産性の向上
- 企業価値の向上

インフラ
= 『社会や生活を支える基盤』



住民がインフラ（行政サービス）に満足する

- 安全・快適な市民生活
- 人口の増加
- 税収の向上

組織の業績の向上に資する活動

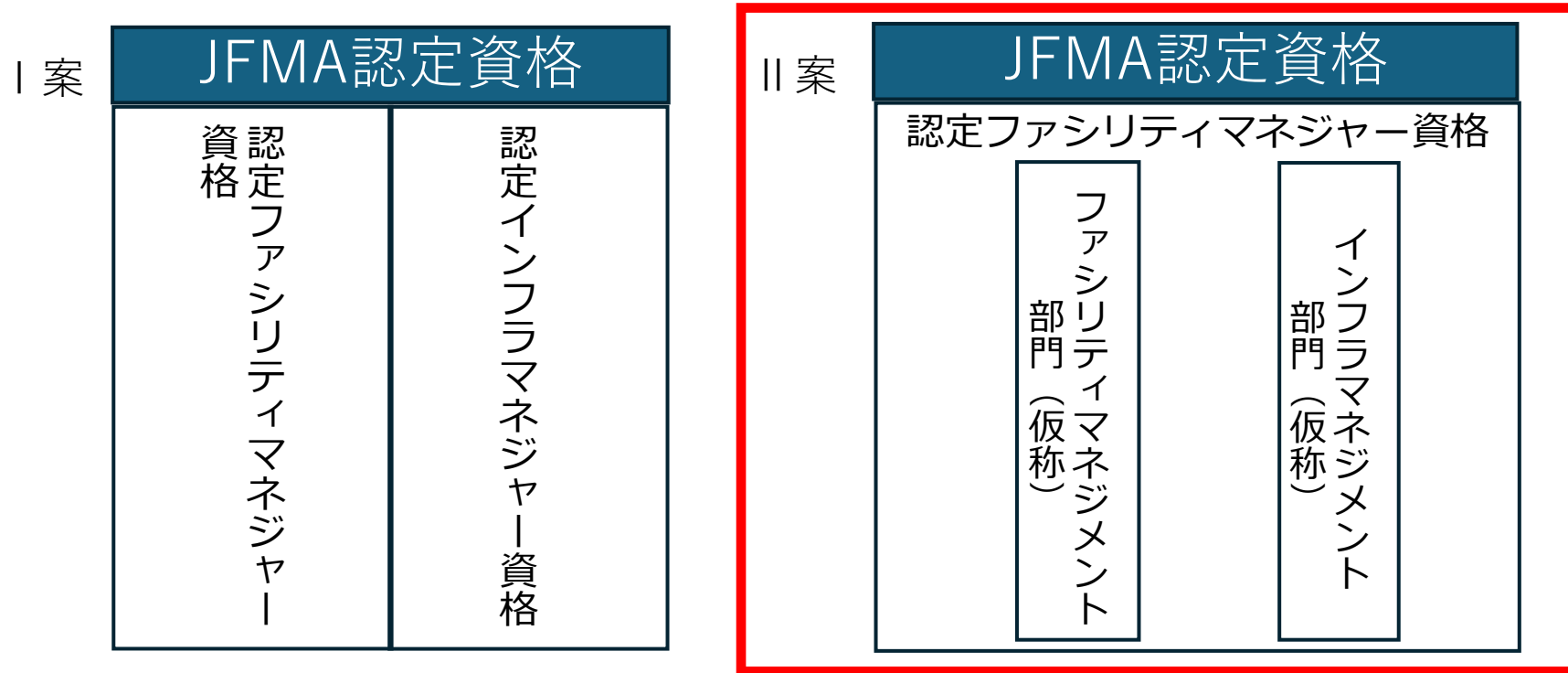
JFMAは、社会環境の変化に合わせて、経営的な視点のもとで**最適なサービスを提案、提供することが使命**と言える。

そして、JFMAはファシリティマネジメント（FM）とインフラマネジメント（IM）を一体となって取り組める環境にあり、他の組織に無い**“JFMAの強み”**と言える。

- 1 ・ 研究部会の紹介
- 2 ・ インフラを定義する
- 3 ・ インフラをマネジメントするの前提
- 4 ・ マネジメント分野における課題（群マネ）
- 5 ・ インフラマネジャーが必要とされる理由
- 6 ・ ファシリティマネジメントとインフラマネジメントとの関係
- **7 ・ インフラマネジャーの育成と普及**
- 8 ・ JFMA活動と国民会議との連携促進

『インフラマネジャー』の定義、役割、立場などを整理した

インフラマネジメント研究部会としては、JFMAでの活動の中で『インフラマネジャー』としての専門家の育成、普及が重要であると認識し、既往の『認定ファシリティマネジャー資格制度』を活用することを考えている。

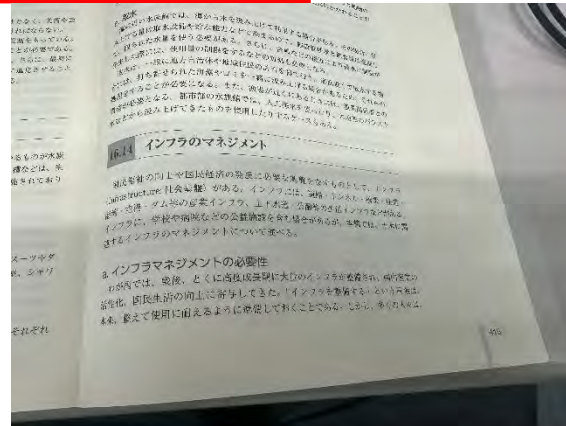
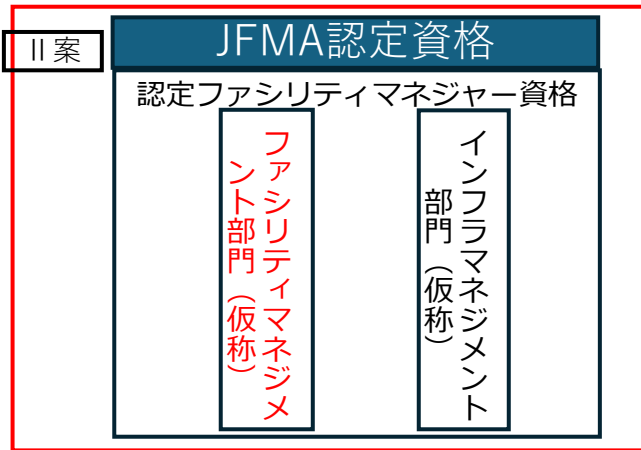


認定ファシリティマネジャー資格制度

：快適かつ機能的なファシリティを継続的に供給し、企業理念の具現化及び経営目標を達成し、かつ健全な社会資本の形成に貢献することを目的として、平成9年度からスタート。

Ⅱ案における人材育成の提案（ファシリティマネジメント部門）
：既存の認定ファシリティマネジメントテキストには、インフラのマネジメントの記載が2ページだけ。資格更新テキストには記載なし。

認定ファシリティマネジャーの方々に、基盤となるインフラマネジメントの知識の更なる蓄積へ ⇒テキスト内容の見直し



- 第16章 各種施設のFM
- 16.1 総論
- 16.2 官庁施設のFM
- 16.3 地方自治体のFM
- 16.4 医療施設のFM
- 16.5 教育施設のFM
- 16.6 研究施設のFM
- 16.7 生産施設のFM
- 16.8 物流施設のFM
- 16.9 商業施設のFM
- 16.10 宿泊施設のFM
- 16.11 図書館のFM
- 16.12 美術館のFM
- 16.13 水族館のFM
- 16.14 インフラのマネジメント（内容を充実させる）



- 1 ・ 研究部会の紹介
- 2 ・ インフラを定義する
- 3 ・ インフラをマネジメントするの前提
- 4 ・ マネジメント分野における課題（群マネ）
- 5 ・ インフラマネジャーが必要とされる理由
- 6 ・ ファシリティマネジメントとインフラマネジメントとの関係
- 7 ・ インフラマネジャーの育成と普及
- **8 ・ JFMA活動と国民会議との連携促進**

8-1・JFMA活動と国民会議との連携促進

今までのJFMAとインフラメンテナンス国民会議との協働開催

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/im/index.html>

公認フォーラム（全国フォーラム）				
革新的技術フォーラム	自治体支援フォーラム	技術者育成フォーラム	市民参画フォーラム	海外市場展開フォーラム
<p>〈フォーラムリーダー〉</p> <p>祢津 知広 国土交通省</p> <p>〈企画委員〉</p> <p>岩佐 宏一 （公社）日本ファシリティマネジメント協会</p> <p>大堀 正人 （株）日立ソリューションズ</p> <p>羽鳥 徹 富士フィルムビジネスイノベーション（株）</p> <p>笹谷 達也 日本ヒューム（株）</p> <p>秋本 雅司 （株）印律製作所</p> <p>山本 康博 築業防災（株）</p> <p>熊倉 信行 東京環境ソリューション（株）</p> <p>杉崎 光一 （株）ベイスコンサルティング</p> <p>小沼 恵太郎 パシフィックコンサルタンツ（株）</p> <p>小村 和司 （株）日立製作所</p> <p>菅野 智行 （株）日立製作所</p> <p>小林 大 大日本ダイヤコンサルタント（株）</p> <p>若木 和雄 日機工業（株）</p> <p>二宮 建 国土交通省</p> <p>佐々木 博樹 国土交通省</p> <p>舘小路 晃史 国土交通省</p>	<p>〈フォーラムリーダー〉</p> <p>岩井 聖 国土交通省</p> <p>〈企画委員〉</p> <p>岩佐 宏一 （公社）日本ファシリティマネジメント協会</p> <p>片岡 信之 （一社）国土数研研究所</p> <p>鈴木 泉 （株）ガイアート</p> <p>高山 保</p> <p>藤原 鉄朗 （一社）建設コンサルタンツ協会</p> <p>森尾 宣紀 長崎市</p> <p>二宮 建 国土交通省</p> <p>佐々木 博樹 国土交通省</p> <p>舘小路 晃史 国土交通省</p>	<p>〈フォーラムリーダー〉</p> <p>鈴木 泉 （株）ガイアート</p> <p>〈企画委員〉</p> <p>中谷 孔右 （株）エコワーク</p> <p>小宮山 直久 （株）三菱総合研究所</p> <p>柏 貴裕 （株）三菱総合研究所</p> <p>岩佐 宏一 （公社）日本ファシリティマネジメント協会</p> <p>渡邊 大介 （株）ガイアート</p> <p>高山 保</p> <p>鈴木 康二 （株）ワンステップ</p> <p>栗本 太郎 （株）建設技術研究所</p> <p>岩井 聖 国土交通省</p> <p>二宮 建 国土交通省</p> <p>佐々木 博樹 国土交通省</p> <p>舘小路 晃史 国土交通省</p>	<p>〈フォーラムリーダー〉</p> <p>岩佐 宏一 （公社）日本ファシリティマネジメント協会</p> <p>〈企画委員〉</p> <p>世古 一穂 NPO研修・情報センター</p> <p>鈴木 泉 （公社）日本ファシリティマネジメント協会</p> <p>駒田 智久 土木学会シビルNPO推進小委員会</p> <p>岡野 登美子 アイセイ（株）</p> <p>田中 努 シビルNPO連携プラットフォーム</p> <p>本間 順 （株）鶴井ハルテック</p> <p>奥田 早希子 （一社）Water-n</p> <p>森尾 宣紀 長崎市</p>	<p>〈フォーラムリーダー〉</p> <p>村瀬 勝彦 国土交通省</p> <p>今井 孝充 （株）フジタ</p> <p>大島 邦彦 （株）野谷組</p> <p>小沼 恵太郎 パシフィックコンサルタンツ（株）</p> <p>武田 大輔 （株）アイ・エス・エス</p> <p>橋詰 健 （一社）PPP推進支援機構</p>



（出典：
インフラメンテナンス国民会議HP
R6年6月1日時点より）

関係性が薄い

フォーラムの開催

インフラテクコ
ンの開催

JFMAで取り組んできたインフラメンテナンス国民会議との協働活動について



技術者育成フォーラム シンポジウム

三方よしのインフラメンテナンスin福島 (H29.3.7)開催報告

主催：(公社)日本ファシリティマネジメント協会
インフラメンテナンス国民会議

- インフラの維持管理において、包括的民間委託等の民間のノウハウを活かす手法の導入が各地で進められている。今回は、特に地域の担い手側に求められる役割や技術の方向性について官民の事例紹介を通して、「第1部、「行政側の期待」「住民・企業側の模索」を各発表者から、第2部、それぞれの立場からの視点でのパネルディスカッションという内容で開催した
- 福島県はじめ全国から、企業、自治体、大学、市民と約150名が参加した
- パネルディスカッションでは、イメージ・評価を上げて人材不足を解消、女性の参画の期待の意見、特に市民の視点から、地元出身トリアスロンアスリートのパネリストからの新鮮な意見が盛り上がり、会場からも積極的な意見が続いた

◇第1部 開会挨拶～話題提供・事例発表

- 協会挨拶 日本ファシリティマネジメント協会 (JFMA) 専務理事 成田氏
- 話題提供『インフラメンテナンス国民会議が目指すもの～インフラメンテナンス革命～』
国土交通省 総合政策局 交流連携事業調整官 安原氏
- 行政側の期待
 - ①『過疎地における地域建設業協働組合の包括維持管理』
福島県土木部道路管理課主任主査 木村氏
 - ②『一部移管後の国道4号および県道の包括的維持管理の施行と経過』
福島県県中建設事務所企画部管理課主任主査 小野田氏
- 住民・企業側の模索
 - ①『民間企業による新たな発想の有料道路の管理・経営』
株式会社 ガイアート 道路維持戦略室 課長 渡邊氏
 - ②『未来のメンテナンスのための新設工事～漏水を未然に抑制するトンネル設計改善』
寿建設株式会社 代表取締役 森崎氏
 - ③住民と協働による道づくり&橋守プロジェクト
日本大学工学部土木工学科 教授 岩城氏



挨拶 JFMA 成田氏
人が中心となり、企業と社会がバランス良くなるよう『三方よし』の考え方の下、建物だけでなく、インフラ施設もファシリティマネジメントすることが重要



福島県 木村氏



小野田氏



日本大学 岩城教授



寿建設 森崎氏



ガイアート 渡邊氏



国土交通省 安原氏

(出典：インフラメンテナンス国民会議HP より)

2F 平安	16:50～17:40	●インフラマネジメント研究部会
<h3>インフラマネジャーの育成、インフラメンテナンス国民会議活動について</h3> <p>アイセイ株式会社 岩佐 宏一</p>		
<p>地方自治体では、老朽化の進んだ道路や橋、トンネルなどのインフラ資産の維持管理に対し様々な課題を抱えている。こうした状況の中で、官民連携を軸にした包括維持管理、並びにインフラマネジメントの導入を行うことで、戦略的にマネジメントを行い、全体最適による課題の解決を目指すことが可能と考えている。このためには、インフラマネジメントを実践する人材として、「インフラマネジャー」の存在が重要となっている。当インフラマネジメント調査研究部会では、インフラマネジャーの制度化、及びその機能について検討してきた。この度、インフラマネジャーの機能を大分類、中分類、小分類と詳細に整理し、また官側と民間側のインフラマネジャーの役割に分けて検討し、関係者へのヒアリングも行って整理したので、紹介する。</p> <p>同時に、国土交通省が設立した「インフラメンテナンス国民会議」に対しても、当研究部会員が重要な役割を担う委員会に参加しており、地方でのシンポジウムには当研究部会と国民会議が協力して開催している。国と当研究部会、そして地方自治体及び民間事業者が一体となり、人材育成を基本にインフラの課題解決を検討・推進していることについても紹介する。</p>		

(出典：JFMAフォーラム資料 より)

▶ 16:50～17:40 (50分)	
(前枠の続き)	5F 小ホール
(※終了 18:00)	
データから見る働き方の多様化と企業不動産の未来	2F 運策
石崎 真弓 (ザイマックス不動産総合研究所)	
「インフラマネジメント研究部会」 インフラマネジャーの育成「インフラメンテ国民会議活動について」	2F 平安
中川 均 (ガイアート) 岩佐 宏一 (アイセイ) ほか	
自治体・公共施設における温暖化防止・省コスト大案	2F 福寿
緑川 道正 (Fun Space)	
発表資料	

JFMA内、そして社会において『**インフラマネジャー**』の認知度を高め、将来を担う学生たちが**魅力ある、夢のある職業、そして誇れる職業である**と感じてもらえる活動を目指す！

インフラメンテナンス国民会議での活動の再開（重要！）

市民参画フォーラム：インフラテクノロジーコンテストの継続的な開催

技術者教育フォーラム：自治体および工業高校などへの出前講座

：国土交通大学校での講座（スポット）の開催

自治体支援フォーラム：「地域インフラ群再生戦略マネジメント」によるアプローチ

- ご清聴ありがとうございました
- インフラマネジメント研究部会
- 部会長 中川均
- hinakagawa51@gmail.com